

会 議 録

会議の名称	豊中市市民公益活動推進委員会 市民公益活動推進助成金審査部会		
開催日時	令和4年(2022年)11月4日(金)15時~16時10分		
開催場所	市役所第二庁舎3階大会議室	公開の可否	<input checked="" type="radio"/> 可・不可・一部不可
事務局	市民協働部 コミュニティ政策課	傍聴者数	1人
公開しなかった理由			
出席者	委員	山田部会長、伊藤(尚)委員、山本委員	
	事務局	高橋部長、水谷課長、大和課長補佐、開発係長、清水主事、田村、正意	
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和5年度(2023年度)市民公益活動推進助成金の助成事業募集について 2. その他 		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

令和4年度（2022年度）豊中市市民公益活動推進委員会 第1回市民公益活動推進助成金審査部会 議事概要

日 時 令和4年（2022年）11月4日（金）15時～16時10分
場 所 市役所第二庁舎3階大会議室
出席委員 山田、伊藤(尚)、山本
(敬称略)

議 事 概 要

1. 開会

開会宣言、会議成立の確認、本日の案件及び資料等の確認。

2. 案件1 令和5年度（2023年度）市民公益活動推進助成金の助成事業募集について

資料1：令和5年度(2023年度)募集案内（案）

参考資料1：豊中市市民公益活動推進助成金制度実施要綱

資料に基づき事務局から説明。

部会長

令和5年度の募集にあたっては、募集説明会への参加が必須ではなくなったということであるが、助成金制度実施要綱の第7条の変更は、市民公益活動推進委員会での了解を得る必要があるか。

事務局

実施要綱については、本部会でのご意見を踏まえて、事務局で精査し、内部決裁していく。

委員

募集案内2ページの助成対象について、同一事業について市の複数の助成金は申込みできないということか。

事務局

その通りである。同一団体であっても、テーマやジャンルが異なれば申込可能である。

委員

募集案内3ページの助成対象となる経費について、申込内容の審査はだれが行うのか。活動を個人で始める場合、経費等について知識があまりないこともある。

事務局

募集説明会を聞いていただいた後、疑問点があれば事務局に相談したり、市民活動情報サロンでアドバイスを受けることができる。

部会長

事務局が事前に確認した申込書類に基づき、計上している経費がその事業に必須のものか、リースで代用できないか等を本審査部会でも議論する。

委員

募集案内 4 ページの「助成の種類と助成の限度額」について、初めて申込みをする団体であっても、要件を満たす場合は自主事業コースに申込可能か。

事務局

要件を満たせば可能である。団体から問合せがあった場合は状況等を確認して説明しているが、募集説明会等でも案内するようにする。

部会長

自主事業コースは初動支援コースと比較して助成限度額が大きい。規模の大きい事業を実行委員会形式で実施する場合は、初回であるけれど自主事業コースでの申込を希望されることもあるかもしれない。そのあたりは説明会で詳しく説明しているかと思う。どのような事業内容で、どんなことを実施するかによってコースの選択が変わってくる。今後、説明会等で丁寧に説明していただければと思う。

委員

募集説明会に参加する団体はどの程度あるのか。

事務局

毎年度、30～40 団体の参加がある。自主事業コースは助成金額が大きい、「助成対象経費の 2 分の 1 相当」の助成となる。初動支援が「4 分の 3 相当」の助成となるため補助割合が高い。また、自主事業コースはプレゼンテーションに進む前に書類審査があるため、初めて申込みをする団体は初動支援コースからチャレンジすることが多い。

委員

募集案内 6、7 ページの「審査基準項目」について、過去に変更があった項目はあるか。

事務局

少なくとも 5 年ほどは変更していない。

委員

世の中の変化が激しいなかで、審査基準にズレが生じていないか確認する必要がある。

部会長

審査基準の配点のなかで、公益性は各項目 2 点配点で計 6 点となる。しかし、実現可能性は合計すると 8 点になる。先駆性も合計すると 8 点。自立発展性も 8 点。地域貢献性が 6 点。公開性が 4 点。本助成金は公益性のある事業を対象としているが、配点は少ない。それをどのように考えるか。

委員

公益性の比率が低いように感じる。

部会長

審査基準にある先駆性について、どこまで求めるか疑問に感じる。課題というのは、基本的に理想と現実のギャップとなるが、社会の変化がある状況になれば、理想が変わってくる。理想が変わると課題も変わるので、そのギャップを埋めるために市民公益活動をするという話になると先駆性も重要な要素になる。審査基準にある「市民の視点からの発想を生かした創造的な事業である」は先駆性の項目となっている。たしかに創造的な部分が必要な事業だが、この部分の文言を検討し、公益性の項目に入れられないか。「市民性」が必要というのもある意味で「公益性」という考え方に

ならないか。

委員

今後の審査にあたり、いま議論した内容を意識したい。

部会長

令和 5 年度の募集に関して、審査基準は変更できないが、公益性や先駆性について意識しながら今後に活かすことを検討していきたい。委員の皆さんのお力を借りながら、事務局でも検討してほしい。

募集案内の 12 ページの助成事業サポート制度（継続実施事業認証制度）について、助成事業の実施後、事業を継続する時に認証マークを活用することで、公共施設等へのチラシ配架の支援を想定していると思うが、配架だけの問題ではなく、団体にもう少し意識付けをしたほうがいいのではないかと思う。助成事業を受けている間はチラシ等にこのマークを付けるが、助成終了後も、とよなか夢基金を活用した事業であったということを周知する意味で活用してもらうのはどうか。とよなか夢基金が市民からの寄付で成り立ち、その基金を活用した事業であるということは、市民の皆さんから応援していただいている事業であるということをもう少しアピールしていただきたい。間接的ではあるけれど、市民の皆さんから応援されている事業であると自信を持って事業を実施いただき、とよなか夢基金のマークが豊中でたくさん見られることで、夢基金の広がりを見せていくような PR の方法を検討してほしい。認証制度は活用すべきだと考える

委員

認証制度の申込みの上限が 3 年となっているが、内閣府の実施する「子ども未来応援助成金」は 1 度助成を受けた場合、その事業を継続していればロゴマークは使用可と聞いている。豊中市が制度に年限も設けているのはどのような理由か。

事務局

団体の自立発展を考えて、一定 3 年間は継続事業を認証マークで応援するという仕組みである。

部会長

個人的には、とよなか夢基金のマークがまちに溢れたら嬉しいが、すべての助成団体が同じ思いでマークを活用してもらえるか、行政的な判断もあると思う。そこも含めて検討いただきたい。制度設計時は、助成終了後も事業を応援できる仕組みがないかと検討し、認証制度を作られたと思う。3 年間という縛りを付けることによって、行政的にも継続事業のチェックができるという意味合いだったかもしれない。豊中市として、とよなか夢基金をどう発展させていくかというところを検討していただきたい。

他に事務局から意見がほしい項目はあるか。

事務局

募集案内 10 ページの報告会について、ここ数年のコロナ禍において、オンラインの手法も取り入れて実施した。子育て世代の団体からは「オンラインのほうが出席しやすい」という声もあった。報告会の目的の 1 つに「交流」があるが、対面での実施が一番効果的であると考えているが、そのあたりを今後どう考えて実施すればいいか。

委員

ベネッセが主催する「瀬戸内国際芸術祭」だが、公開プレゼンテーションの実施時は対面で集ま

って懇親会を行う。芸術での島おこしが目的だが、そこから繋がりが広がるのが良いと思う。コロナ禍で zoom は便利であるし、そちらにシフトしがちだが、古き良きものも取り入れながらうまく団体同士をマッチングできるといいと思う。

委員

コロナ禍で自治会もここ数年、対面での実施ができない状況で大変だと聞いた。PTA も同じである。コロナをきっかけに、リアルとリモートを併用する手法ができたので、併用していけばいいと思う。片方に偏るというわけではなく、うまく併用していくというのがベストではないかと思う。

部会長

リアルとリモートを併用した時は交流が難しい。報告会を報告の場としてハイブリッドで実施するのは一つ方法と思うが、目的にある交流の機会をどのように作っていくか。別枠で考える必要があるのではないか。もうひとつは、助成事業として採択された団体だけが参加するのではなく、その他の団体も含めての交流も検討し、また別の交流のかたちを考えていけばいいのではないか。開催時間の問題もあるため、すべてのことを 1 日で実施することに課題もあると思うので、報告会と交流を別に考えていくのも一つの手ではないか。

事務局

来年 2 月にオープンする庄内コラボセンター内に市民公益活動支援センターが開設する。市民活動情報サロンと比較し部屋が広がるので、助成金を受けていた先輩団体や助成金の活用を検討している団体も含めて団体同士の交流の方法を検討していきたい。

部会長

報告会や交流会だけで完結させない取組みが必要である。

事務局

コロナ禍以前の報告会は会場にたくさん来場者がいた。コロナの影響もあり仕方がないとは思いますが、団体からの報告としてビデオ録画を放映することには違和感があった。一方で、たくさんの団体が順番に報告をすると、長時間拘束され、その後に交流会を実施するとさらに長くなる。団体にとっても負担感があると思う。豊中市内で活動する様々な団体が対面で交流し、名刺交換して輪が広がっていくことも大事。ご意見としてあったように、報告会と交流会を別枠として検討していきたい。

部会長

コロナで最近是对面で交流する機会が少ないため、名刺交換等をしたいという団体も増えている。

事務局

先日、今年度の助成団体を対象に中間オリエンテーションを実施し、実績報告書の書き方等の説明など行った。閉会後も、いくつかの団体が残られて、団体同士で名刺交換し 30 分以上交流をしていた。対面での開催による効果を実感した。

部会長

とよなか夢基金の PR はどのような機会に行っているのか。

事務局

現在、第一庁舎 1 階の魅力発信コーナーにおいて、とよなか夢基金募金箱やパネルの展示をしている。助成事業の実施時にリーフレットや缶バッジを配布していただいたり、市主催のイベント時

にも同様に実施している。

部会長

豊中市都市デザイン賞のように、助成団体と活動の写真や紹介文のパネルを作成し、何かの機会ごとに巡回するのはどうか。また、缶バッジを付けることは、潜在的な PR となる。すでに知っている人に伝わるだけではなく、知らない人たちに興味を持っていただくことが今後の発展に繋がる。

委員

缶バッジにデザイン性を持たせたり、たまにしか手に入らないものにしたたり、そういうものを作ってみるのもいい。

部会長

今、問題となっているヘルプマークだが、このマークがおしゃれとして使われていると初めて知った。本当に必要な人が使っているのか、それ以外の人もいるのか。無料で手に入るのは、その怖さがあるが、実施方法によっては普及にもつながる。

委員

募集案内 1 ページに、「応募書類や実績報告書等の閲覧、助成金の交付を受けた団体による事業報告会をとおして、事業の成果を地域社会全体で評価することをめざす」とあるが、どのように書類等は公表しているか。

事務局

募集案内 10 ページに記載のとおりである。

委員

豊中市ホームページでも閲覧できるか。

事務局

市ホームページには事業の概要などを掲載している。当課や市政情報コーナーでは事業の応募書類等を閲覧できる。

委員

良いことだと思う。可能な限りオープンにしたほうが、今後興味を持つ人も増えると思う。

部会長

市民公益活動に関わってみよう、やってみたいと思う人が、何かしらの情報を得たいとき、実は公開されている情報はたくさんある。しかし、どうしたらいいかわからない場合が多い。ホームページに公開している情報も、知らない人にとっては、検索してもページにたどり着けない。いろいろな機会に情報発信していくしかない。リアルとインターネット上の両方で進めていかないといけない。

委員

とよなか夢基金は寄付が財源となっている。積立金は 2018 年時点で 2,772 万円となっているが、助成金の交付が 2021 年度は 300 万円ほどとなっている。潤沢にある積立金の有効な使い道はないのか。

事務局

昨年度は「新型コロナ対策」として、とよなか夢基金を財源とした臨時の助成事業を募集した。今後、さらに予算金額を増やすとなれば、助成金の補助割合や上限金額の変更の議論が必要になる。

また、新しい制度の導入という話も出てくるかもしれない。

部会長

自主事業コースは助成対象経費の2分の1相当の助成となる。この割合を変えたら自主事業コースの申込みもたくさん出てくる可能性がある。2分の1助成なので、100万円の事業をすると50万円を助成、残り50万円を団体に用意する必要がある。割合を2分の1ではなく、初動支援コースと同じ4分の3とした場合、申込みが増えるのではないか。そういう考え方もある。

それでは、令和5年度の募集案内については、本日の資料の内容で部会として了解としたいがよろしいか。

－異議なし－

2. その他

○第4回市民公益活動推進委員会 12月26日(月)午後2時 開催

3. 閉会